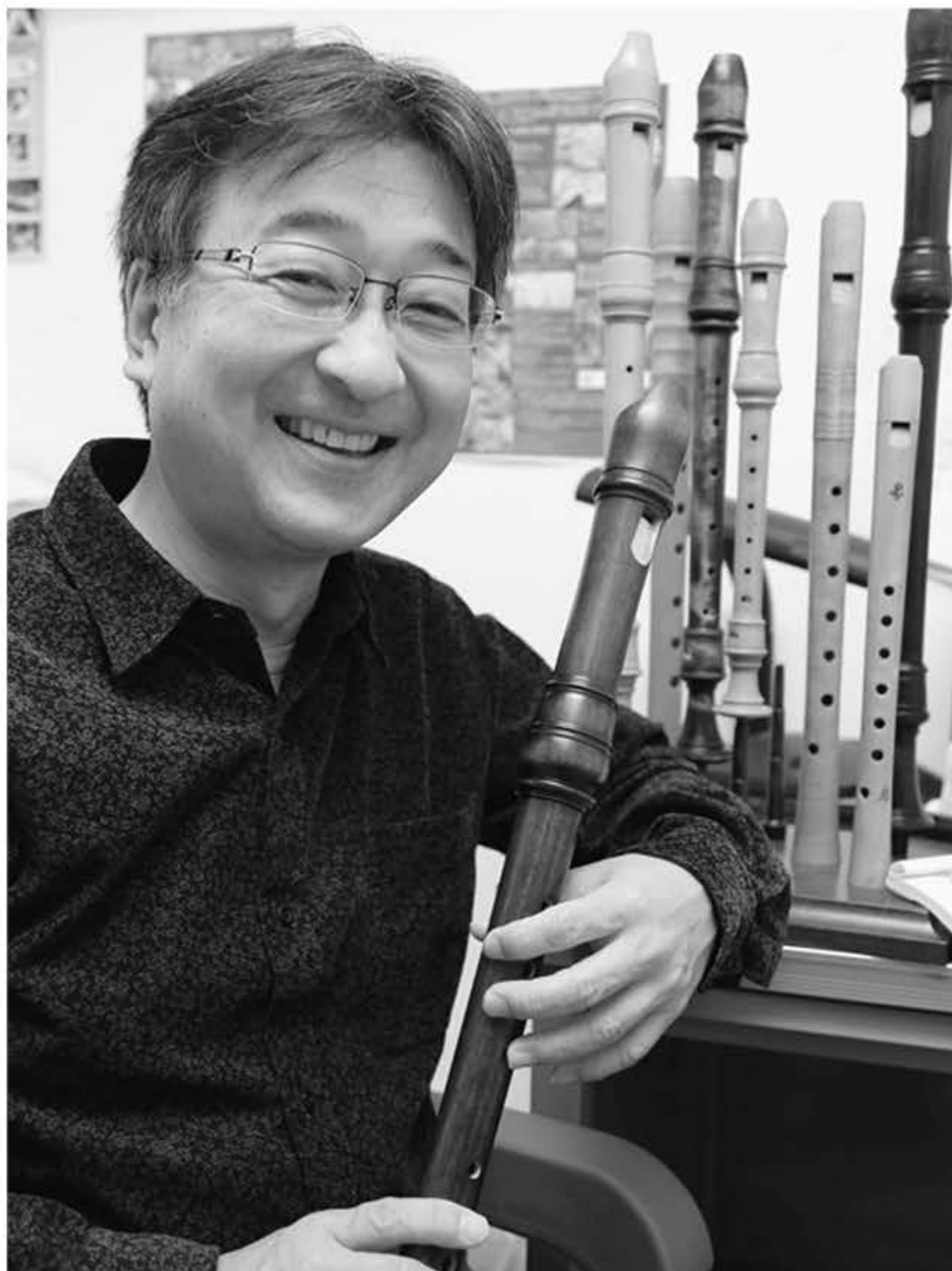


釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

Ⓣ



リコーダーを手に村雲さん

リコーダー

村雲 雅志さん(55)＝釧路市

音別町尺別生まれで、音楽教師の父からピアノを学んだ。中学校では熱心な先生に誘われてリコーダ部に入部。バス・リコーダーを担当し、アンサンブルの楽しさに目覚めた。3年生の時にリコーダー2重奏で全国3位、高校3年の時には同4重奏で全道コンクール最優秀賞を受賞。大学時代には千成千徳氏からチェロに似た古楽器ビオラ・ダ・ガンバの手ほどきを受けた。その後、北海道における古楽器アンサンブルの草分けアーリー・ミュージック・コンソートにリコーダー奏者として参加。1987年には岩見沢市立総合病院で道内初となるロビー・コンサートを開いた。

を中心とした自主公演をはじめコンサートの企画、リコーダーの指導、合唱指揮なども行っている。昨年開いたコンサート「バロックの光と影」古楽器による盛期バロック音楽のひととき」などにより、釧路音楽協会高後賞を今年受賞した。

現在、市立釧路総合病院で泌尿器科医を務めており、「音楽好きにしてくれた両親をはじめ、職場の同僚や家族の理解と協力のおかげ」と感謝し、「音楽との出会いで一生が変わる人がおり、若い才能が伸びる手伝いをしていきたい。また楽器を通じて音楽の多様性や楽しさを紹介していきたい」と話している。

(黒田文夫)

02年に釧路に戻り、バロック音楽

音楽の楽しさを紹介